

政務活動費 活動実績報告書

件名	会派「政策ミライ」先進事例視察研修
使途	1 調査研究費 2 研修費 5 要請・陳情活動費 ① 自費
金額	
期日	令和7年2月13日（木）～令和7年2月14日（金）
場所	① 大分県臼杵市 ② 大分県豊後高田市
目的	① 人口減少社会における「地域づくり」の取り組みについて ② 10年連続社会増の実績がある人口減少対策の取り組みについて
報告者	八女市議会議員 原田英雄
参加者	中島信二、高橋信広、栗山徹雄
概要	<p>1 大分県臼杵市（説明：議会事務局大井主査、望月地域力創生課長、石井総括課長代理） 人口減少社会における「地域づくり」の取り組みについて</p> <p>（1）臼杵市の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 豊かな食文化：ユネスコ創造都市ネットワーク（食文化分野）加盟認定 ② 活発な地域活動：旧小学校区毎全てに地域振興協議会を設置（18団体） ③ 充実した子育て環境：妊産婦から出生、子育てまで切れ目の内支援 ④ 安心の医療：「うすき石仏ネット（カード）」による情報一元化活用 <p>（2）地域力創生課創設の背景、目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 人口減少と高齢化社会、住み心地一番の街であり続ける ② 平成24年に臼杵市まちづくり基本条例制定 ③ 人口が減少しても日々の暮らしが心豊かで充実した地域づくりが実現できるよう地域活動を後方支援し、市民の参画と協働を推進する <p>（3）地域振興協議会の活動と支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 活動拠点、財源、情報、情報発信等に全庁的支援 ② 一般活動助成金（参加者数×300円、上限30万円）、特別活動補助金（上限30万円） ③ 活動例：スマイルバスの運行、海岸清掃、道路に倒れる樹木伐採など <p>（4）移住・定住支援施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 空き家バンク（HP、バーチャル内覧、活用促進補助、改修補助）直近10年で301件成約

- ② 臼杵体験（移住ツアー、おためしハウス）
- ③ 移住支援（Uターン、Iターン者支援；引っ越し費用、家賃、新築、購入、改修補助、仕事紹介、移住ガイドブック、移住支援サイト、移住促進ポスター、移住定住サポーター、移住者交流会、）
- ④ 定住促進（住宅補助、新婚生活応援）

成果：移住者 905 世帯 2030 人、40 代以下の子育て世代が多い。田舎暮らしの本 全国住みたい田舎ランキング 2 位

(5) 質疑

Q 1 石仏カードの経費負担は？

A 1 医師会と折半している。

Q 2 行政区と地域振興協議会の所管は一緒でしょうか？

A 2 同じ地域力創生課である。

Q 3 今後の課題は？

A 3 未だ社会増までは至っていない。今後、地域課題を共有しながら参画と協働に取り組むプラットフォームを目指す。

2 大分県豊後高田市（説明：大塚議会事務局長、小野地域力創造課長）

10年連続社会増の実績がある人口減少対策の取り組みについて

(1) 豊後高田市の特徴

- ① 住みたい田舎 13年連続ベスト3
- ② トップクラスの支援（全て完全無料：高校生までの医療費、0歳～中学生給食費、保育料、公立幼稚園授業料、妊産婦の医療費＋子育て応援誕生祝い金最大 200 万円支給、住居用地土地代無料など）
- ③ 大分県内の過疎自治体では最も低い人口減少率、県下で唯一 11年連続社会増
- ④ 県外からの転入者が多く、県を跨いで移動する女性の転入超過がプラス
- ⑤ 10年間で 1,339 世帯 2,903 人が移住。
- ⑥ 県が整備した中核北部工業団地（自動車関連が多い）への就労が多い。

(2) 移住定住支援施策

- ① 空き家バンク、空き家リフォーム補助金（改修、仏壇撤去、クリーニングなど対象）、空き家マッチング奨励金 2 万円
- ② 引っ越し応援金、住宅改修、家賃、新築補助
- ③ 安価な定住促進住宅、子育て応援住宅、新婚さん応援住宅、無償宅地等

(3) 子育て支援

- ① 全国トップクラスの支援施策、全て完全無料：高校生までの医療費、0歳～中学生給食費、保育料、公立幼稚園授業料、妊産婦の医療費＋子育て応援誕生祝い金最大 200 万円支給、高校授業料、高校生入院時の食事代）令和 7 年度より高校生の昼食無料提供予定

(4) 教育支援

- ① 県内トップレベルの学力を支える無料の市営塾「学びの 21 世紀」
- ② 全小中学校にタブレット整備、冷暖房完備

(5) 質疑

Q 1 多彩で他に例を見ないほど充実した施策が展開されているが経費、財源はいかに。

	<p>A 1 全てで3億2千万円程度である。財源はふるさと納税4億円の内2億円を活用し、他に過疎債を充当している。</p> <p>Q 2 外国人への移住支援はありますか？</p> <p>A 2 特にない。</p> <p>Q 3 PRや宣伝方法はいかに？</p> <p>A 3 田舎暮らしの本の影響が大きい。HPや県の事業などの他は特段取り組んでいない。</p>
<p>所感</p>	<p>今回は、移住定住の先進地事例調査を主に全国的に有名な2自治体選考したが、大分県臼杵市、同豊後高田市両市とも子育て環境の充実で多くの若年層が移住先に選んでおり、結果的に小中学校の児童生徒の増加に繋がっている。また、県外からの移住も多く、豊かな自然環境も選択される要因の一つであると感じた。いずれの市も日本でトップクラスの移住定住施策が展開され、着実にその効果を挙げており、人口減が著しい八女市においては移住定住施策について一層の取り組み強化が必要であると痛感した。</p> <p>また、臼杵市の地域活動については、将来を見据えた協働のまちづくりのモデル的な取り組みであると感心させられた。今後、厳しい行財政運営が求められる中、どのように効果を生むのか期待されます。</p> <p>少子高齢化により人口減少が進む中、特に過疎化が著しい八女市において移住定住促進は今後の行政政策の最重要課題である。加えて、西高東低と人口が偏在する本市において、東部では児童生徒の減少と相まって学校の存続も危ぶまれており、新たな政策展開が必要である。</p> <p>今後、新市長の下、議会と執行部の英知を結集し、八女市の資源を活かして若年世代の移住定住に取り組まなければならないと決意を新たに視察を終えた。</p> <p>臼杵市、豊後高田市には、いずれも多忙な折にもかかわらず懇切丁寧にご教示頂き、この場を借りて深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。</p>

